

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	・各領域において、知識や技能の個人差が大きい。全体的に語彙量を増やしていくことが課題である。	・多くの文章を繰り返し読んだり、自分の表現に生かしたりして、言葉の感覚を養っていく。また、授業の中での話す、書く活動時にはよりふさわしい語句を選択して、使うように意識させるよう指導する。	
社会	・我が国の政治の働きや歴史について、知識が未定着であったり、覚えることに意識が偏ったりしている傾向がある。	・さまざまな社会的事象の見方・考え方を働かせて思考できるように、資料の活用やグループ活動を多く取り入れる。	
算数	・問題を解決しようとするときに、既習の知識・技能を意識していない児童が多い。	・既習の知識・技能を用いれば未習事項も解決できると考える態度を養うために、□を用いた問題場面を設定する。また、既習の知識・技能を活用している児童の考えや発言を取り上げ価値付ける。	
理科	・観察実験そのものを楽しむことに終始し、観察実験の方法や結果のまとめ方、考察が課題からずれることがある。	・結果と考察、結論を区別して考えさせる。考察は結果から分かる共通性や規則性を見いだすこと、そして、結果は最終的に得られた判断として短い言葉で表現することなどを示していく。	
音楽	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、音楽的根拠をもって表現を工夫し、思いや意図をもつことに課題がある。	・気付きや感じたことを全体共有し、リズム打ちなどの特徴をつかむ活動を取り入れる。また、友達と考えを比較・共感したり、表現を試したりする時間を設け、思いや意図をもてるようにする。	
図画工作	・作品づくりには豊かな発想をもって取り組める児童が多いが、他者の作品から自分の見方を深めるところに課題のある児童が多い。	・視点を具体的に与えながら鑑賞の体験を多くさせて、作品の見方や自分の作品への生かし方を学ばせていく。	
家庭	・主体的に学習をする児童は多いが、生活経験が異なるため知識技能面で個人差が大きい。家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する態度に課題がある。	・基本的な知識技能を身に付ける時間を十分確保し、友達との交流やICTを活用し理解を深める。家庭で実践する課題を見だし、日常生活への発展につなげる。	
体育	・仲間に動きのポイントやコツを伝えられる児童が少ない。	・動きのポイントを学習カードやタブレット端末を用いて周知し、それを基に話し合えるようにする。	
外国語活動	・文字を書く基本的な約束事が定着していない児童が多い。苦手意識をもつ児童は、授業に消極的である。	・文章を写す作業も取り入れ、こまめにチェックする。児童が楽しく活動しながら外国語を学習できるよう教材研究を行い、自信を付けさせる。	